

3月のアルミレポートおよび4月の見通し (3)

橋本アルミ (株) 橋本健一郎



【アルミニウム2次合金同合金地金等生産実績】

前年比+2.7%、6万7453 t、5カ月連続プラス。
出荷は、+2.9%、6万8459 t、5カ月連続プラス。
内出荷先
鋳物-0.2%、ダイカスト+4.1%、板-0.1%、押
出-2.1%、鉄鋼+17.2%、合金地金メーカー-5.9%。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向
によれば板類・押出生産合計は前年比-2.5%、16万
2609 t、2カ月連続マイナス。

【板類】

生産・出荷共に2カ月マイナス。
(1)缶材30,109 t(▲4.7%)
ビール系飲料の減少に加え、缶メーカーの在庫調整
により、マイナスとなった。
(2)自動車14,791 t(15.9%)
乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調によ
り、プラスとなった。(1月の軽自動車を除く国内乗
用車生産台数:517千台、前年同月比:▲3.7%)
(3)輸出14,750 t(▲14.0%)、2ヶ月連続でマイナス。

【押出類】

生産、出荷ともに2カ月マイナス。
①建設:35,615 t(▲1.7%)東京オリンピック・パラリ
ンピックに向けた都市開発の整備に伴う建設向け需要
はあるものの、新設住宅着工戸数が落ち込んでおり、
7ヶ月連続でマイナス。
②自動車12,382 t(2.9%)
乗用車へのアルミ需要増やトラック架台の好調によ
り、プラスとなった。

【輸出】

アルミ新地金が前年比-11.5%の129 t。
二次合金が-37.7%の1453 t、スクラップが+14%
の9592 t、アルミ缶が-3.7%の5541 t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-6.2%の13万233 t、二次合
金が+3.1%の9万8216 t、スクラップが+44.1%の778 t、
合金スクラップが+17.8%の4143 t。

【見通し】

- ・自動車は生産が-0.1%、国内販売台数が前年比-4.9%、
生産が2カ月連続マイナス、販売が5カ月連続マイナス。
減速ではあるが生産が2カ月連続マイナス。生産販
売ともマイナス今後も続くか注意が必要。
- ・住宅着工の動向については、前年同月比で-2.6%
と8か月連続マイナス。下げ幅が縮小するも下落傾向
かどうか今後の動向に注目。
- ・アルミ圧延・押出品生産数
板類・押出生産合計は前年比、-2.5%、16万2609
t、2カ月連続マイナス。今後マイナスが続くかの動

向に注目。

【アルミニウム2次合金同合金地金等生産実績】

前年比+2.7%、6万7453 t、5カ月連続プラス。出
荷は+2.9%、6万8459 t、5カ月連続プラス。プラス傾
向が続くか注目。

- ・アルミ輸出は内需用途から増加。ただスクラップ
に関しては人手不足問題からの地金優先使用をうけて
増加した。

- ・アルミ輸入は自動車生産の整調から2次合金及び
スクラップは増加。その他は減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、足元、自動車生産、住宅着工などが減
少傾向にあり、またメーカーの期末の買い止めの反動
や価格の下落にともない放出されるのではないかと

需要面に関しては前月に続き自動車の生産は販売が
16カ月ぶりに同時連続減少していることやアメリカ
のアルミへの関税問題への警戒感から購買意欲は薄い
のではないかと

【価格・為替予想】

今月は米中貿易摩擦の動向や朝鮮半島の地政学リス
ク問題に左右される。

米中貿易摩擦に関してしては、トランプ大統領の交
渉術から考えれば、何かしらの取引が行われることは
間違いなく、中国もそれに対抗、及び対応する姿勢を
見せていることから一喜一憂するものの結果的には落
ち着くのではないかと。

朝鮮半島問題に関しては北朝鮮最高指導者が南側の
公演を初めて観覧するなど、異例の対応を見せている
ものの歴史的に裏切られた経緯もあり早急に解説する
かどうかは未知数。

ただ今月いきなり手のひらを返す可能性は低くので
はないかと

それらを踏まえた4月の銅価格は、米中貿易摩擦が
起こらず交渉の範囲内であり、北朝鮮問題が大きな問
題を起こさなかった場合、先月高値の2200ドルを
予測。いずれかの場合には2100ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合先月安
値の1900ドル。

為替は、上記材料から、ドル円値は104円~10
7円(TTM)台を予測。

スクラップ購買価格に関しては0~10円程度と
予測している。

【「3月のアルミレポートおよび4月の見通し」終了】



定期購読6か月 37,800円
外電配信6か月 45,300円
(消費税込み)

株式会社日刊金属